

と云ふ人、初て此の地に邸地を賜はりたり。故に小路の名に呼べりと。但し、神尾八兵衛と云ふ人は詳かならず。

○土橋

上土橋・下土橋とて兩橋ありて、共に惣構堀の橋也。龜尾記に、昔は土橋にてありしゆゑ此の名あるか。今は常の板橋也。といへり。但し廢藩の後惣構堀を廢し、今は僅々たる土橋となりたり。按ずるに、町會所留記の享保五年七月の書付に、材木町土橋左官彌兵衛といふ事見たり。又算用場の留記に、明和二年九月郡方の橋々三間以下の分を土橋にする事を記載せり。此の頃金澤市中などにも土橋の僉議ありたるにや。

○千女橋

金澤橋梁記に、千女橋材木町下。とあり、此の橋は今詳かならず。材木町惣構堀に架けたる橋々多し。その内ならんか。

○劔先辻

小將町より材木町へ出づる辻を呼べり。故に元祿六年の士帳に、御小姓町劔崎辻とあり。同士帳に、味噌藏町劔崎辻ともあり。但し此は別所の辻なるにや。龜尾記に、此劔先

辻は、佐久間玄蕃金澤在城の頃は街尾にて、刑法場なりといへり。久保市乙劔神社の社記に、乙劔氏子地の地境なるに依りて、劔境の辻と呼べるも昔の遺名なるを、今は劔先辻といへりとあり。但し劔先といふ地名は此のみならず、石川郡の邑名にも劔崎村といふもあれば、出崎の意ならんか。今呼び誤りてけんさか辻といへるものもありける故にや。明治四年戸籍編成の時、賢坂辻とて町名となしたり。但し是も古實に違へりといふべし。

○田井村舊地

加府事蹟實錄に云ふ。昔は紺屋坂邊より上材木町へかけ、皆田井村の地にして、其頃の農民は今材木町劔先辻といふ邊に家居せりと云傳ふと。又加邦錄には、昔は小將町の邊、田井村の村地にて、劔先辻に田井の村落あり。家數百軒許ありて、馬も百疋許ありしと也。追々町地と成り、田井の村落成瀬内藏助下邸の地へ移轉し、其後再び今の處へ移轉す。といへり。加賀古跡考にも此の事を載せたり。田井天神由來書に、最前は材木町劔崎辻邊に社地有之鎮座之處、慶長年中町並に相成るに付、田井村と共に今の地へ移轉命

ぜらる。とあり。されば、往昔は田井の村落と共に、田井天神の社地も劔先辻の邊りにありしものなり。但しその遺蹟は今詳かならず。

○田井故城三丸跡

三州志故墟考に云ふ。田井故墟、石川郡金浦郷田井村領にあり。加邦錄に云ふ。奥村河内守の第地より出羽町へかけ松田が居城とし、松山寺邊一郭、成瀬内藏助第地は三郭搦手にして、細長き繩なり。今の八坂道其の頃は調馬場なりとぞ。右松田次郎左衛門は本源寺の家老にて、加賀郡の棟梁也。石川郡米泉村須崎兵庫と威勢を争ひ、遂に和睦して、兵庫が館にて殺され、田井の居城も須崎が爲に毀たると云傳へたりと。

○成瀬内藏助邸跡

延寶の金澤圖に下の如く記載す、この居邸は、其の地八坂の地繼きなりしゆゑ土地高く、高石垣の上に樓門・長屋ありて、其の体甚だ美々しく、實に城郭の如く見ゆ。故に俗に材木町の小城と呼べり。成瀬氏世々こゝに連綿居住ありしかど、明治廢藩の際、樓門・長屋は勿論、高石垣等悉く取

